

---

# 地獄の門 HELLGATE 『怪』

シー様（借りの返せない男）

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地獄の門 HELLGATE 『怪』

### 【Nコード】

N4120P

### 【作者名】

シー様（借りの返せない男）

### 【あらすじ】

オッサンがゲートを開けてしまう

逝く！

PCの前にて地獄の門を開こうとするオッサンが居た。

http://hgsc.jp/mission|01.html  
?accesskey"0db267ab001b7a1

の様な怪しいサイトの様な、映像を観て暗号を解読しようと試みていた。

(あくまで目安ですので、読者の裁量で自由にホラー感をイメージしてくださいm( \_ \_ )m)

オッサンはこの問題が解けない。

諦めればいいのに、執着して何日も頑張ってる。

何かに取り付かれたかの様に頑張る。目の下にクマができてる。

沢山の言語の本を読み漁り、部屋はぐちゃぐちゃ。。

そして、何日も解読明け暮れたある日、ついに地獄の門が開いた。

おじさんの顔が、凄く嬉しそう。反面キモイ

しかし、その瞬間、画面が数列に支配された。

ウィルスに感染したかの用に、PCは言う事を聞かない。

コンセントを抜いても止まらない。

叔父さん戸惑う。

画面には10進数の数列のノイズ無限に流れ、男の網膜を刺激していく。

脳神経に働きかける。オッサンは白目になり痙攣を起こし、泡を吹きながら意識を飛ばした。

その瞬間オッサンの脳に女の生きた人生の感覚が流れ込んで来た。

その女とはイギリスのエレノア13世紀の女王。

50歳で没するまでに16人の子供を生む。8歳の頃、結婚し王工ドワードの元に妃として即位した。

この異例で早い結婚はエレノアの両親が早段階で没してしまい、8歳で一国を守るのは不可能と各大臣にそのかきた事による。そしてエレノアは大国アレキサンドラに嫁いだ。当時、戦乱の世において女王しか居ない国を維持するの危険だったのである。形式的には大国アレキサンドラの配下となったようなものである。

国の実権を維持する為とはいえ、大国にエレノアは嫁ぐべきでは無かった。アレクサンドラでは権威を維持するために近親婚を繰り返していた。その結果、エドワードは子供を授かる体ではなかったのである。だが国として跡継を求め姿勢は当然あり、王が子供を埋めない体質としては世間にどうしても発表できなかつた。また、王でさえ自分が子供を作れない事を知らなかつた。全ては王の知らぬ大臣達の間で行われた事であり、そのしわ寄せがエレノアに全てのしかかつた。

大臣達はエレノアを出産させる為に自らレイプまがいの行為を行い。そして、その行為がバレナイ様にと山奥不覚の牢獄にエレノアを閉じ込めた。跡継ぎが名目とはいえ、気品があり絶世の美女であつたエレノアは大臣達のていどのいい玩具とされたのだ。

そして幽閉しているエレノアの代わりに、エレノアに似た人物を化粧で誤魔化し影武者として王妃へとあてがつたのである。

幽閉されたエレノアの地獄は、想像を絶した。行為外にも、ありとあらゆる薬剤を飲まされ続け正常な精神を壊していった。

大臣達がエレノアが壊れたと気付いた時には、大臣の一人がエレノアに食された時だつた。凶器的で狂気的な光景を見てしまった生き残りの大臣は、その事件以降門を開ける事さえ躊躇い。そして全てを忘れる様に門を閉ざした。

それから700年後の2011年、誰にも気付かれる事の無く山奥にあつた地獄門が開かれた。

その時、オツサンは気付くと地獄の門の中に閉じ込められていた。目の前に居た不気味な白服の女はオツサンに気付かない。

女が見ているのは光の先で地獄の門の外である。

門の扉は開いている。

その光に吸い込まれる様に彼女はユラユラとその世界へ降り立った。

女は門から出たとき森の山の中に居た。背中越しにあるのは自分が閉じ込められた地獄の門。

自分に何が起きたのか判らない女は周囲をキョロキョロ見渡す、壊れた様に奇声をあげながら、森の中へと駆けていく。その姿は狼の如く血に飢えている。

その先にあるのは、山の高台にある13世紀初頭のアレキサンドリア城・・・

その先にエレノアは向かっているのだろうか。

エレノアが去った後、森は静まり返る。

静けさを取り戻した時、聞こえるのは悲鳴と食を連想される肉片を断ち切る音。

血が流れ流れ落ちる感覚は地獄の門の中のオツサンでさえ判った。

そしてオツサンは地獄の門に閉じ込められた。

次元違いというものだろうか。

オツサンの次元では門は閉ざされ光は存在しない。あるのは白き壁と無のみであった。

## 逝く！（後書き）

エレノア情報について、[wikipip](#)でのうる覚えである。  
なので97%本文はフィクションである。

エレノア「エリナー・オブ・カスティル（Eleanor of  
Castile、1241年 - 1290年11月28日）

なるこの小説「墮落」に書いてあるのだが、覚せい剤を使用すると  
食欲が無くなるらしい。

俺の場合、体調を良く崩して食欲が無くなるのだけど、でも、そう  
いう時、味の薄い食べ物や味の薄い流動食が旨いと感じる。

特に、栄養バランス率が高いほど旨いと感じる。

仮に覚せい剤を使用して食欲が無くなって、薄い食べ物なら食べ  
られる筈であるが、この物語の様に覚せい剤を投与し続け、食欲無  
くなった状態で、尚且つ飢えに苦しんでいた場合は……  
そうでなくとも、もし、自分の血液でも舐めてたら……

人間の旨さを知れるのではないかと思う

行方？

現代のおっさんの家にて。

書齋にてPCが勝手に動いていてモニターに数列が画面に流れている。

オッサンの姿は影も形も無い。

その家の外、おっさん意識不明のまま救急車にて運ばれる。

一方、地獄の門に閉じ込められた、オッサンの魂は、一向に出られないでいた。

壁を叩いても、門を叩いても、誰も返事をしない。

叫んでも何も無い。

静寂ののみが、空間を支配する。

柱に血で刻まれたダイニングメッセージが、おっさんの運命を象徴しているかの様。

何時間、何日、経っただろう。不思議な事に叔父さんは腹が減らない。

何年、何十年、経っただろう。不思議な事に叔父さんは年を取らない。

その間、おじさんを囲う周囲の壁やダイニングメッセージは、時間と共に風化し朽ち果て、見えなくなっていく。

ただ、時が無限に流れ、おっさんを孤独と退屈が支配する。

そんなある日、突然、世界が地鳴りと共に真っ暗になった。

山崩れが起きたのだ。地獄の門も部屋も潰れてしまった。

その瞬間から、おじさんは、身動き一つ取れなくなった。  
暗闇の中で、永遠という時を過ごした。

地球はそれでも生きて活動し、大地は動く。

人類が消えた後も動き続ける。

地上が自然の大変動が繰り返し、10億年。

ついに、おじさんの身動きが取れた。

閉じ込められた山は無くなり、魂が開放されたのである。



おじさんは火星の様な死の惑星に、当ても無く、歩いてた。  
自分が生きているのか、死んでいるのかさえ判らず。

魂である事にも気付かず、肉体がそこにあると思ひ込みながら・・・

そこから何億年、何十億年の時間がたっただろうか。

ユーホーヤ、何かの人口探索機械が火星となつた地球に来たこともあつた。

オッサンは手を振つたりもしたが、空しいだけ。

また、そこから、何兆年、何千兆年の時間が流れただろうか。

太陽系あ銀河は衝突し爆発し、おじさんは宇宙に放り出された。

何度も爆発している間に、真つ白が叔父さんを包み込んだ。

宇宙の終わりである。

宇宙は、拡大し続けていたが、内側に伸縮を始め、全ての星や粒子を全て飲み込んだ。

宇宙誕生説のビックバンの反対、逆ビックバンが起き、叔父さんは座標Xに吸い込まれた。

おじさんは今、何処にも居るのか。

完全な無の世界のどこかにいるのは確かである。

その無の世界をガラス球とする。その背景は闇とする。

闇から突然、人の手が現れ、ガラス球を掴んだ。

そのガラス玉を棚に仕舞おうとしてる。

ガラス玉は他にも沢山ある。

規則的に棚に格納されている。

おじさんの入ったガラス玉が棚に入れられる。

入れた人物は、その部屋を後にする。

足音が部屋から去る音を告げ、扉を開けるキシム音が聞こえ、バタンとしまる音。

その扉の閉まる音とともに、おじさんの入っていたガラス玉が地面を落下。

弾け飛ぶ様に割れてしまった。

叔父さんは割れたガラスの破片まみれで、そこに立っていた。

その世界は一体なんなんだ？

作者にも判らん！

行方？（後書き）

誰か教えてー！ー！ー！ー！！！！





3人称神視点的にスロウで見るならばは  
オッサンは木製の床から窓の外に飛び出した。  
どうやら2階だった。

上空へと舞い上がる。

凄く綺麗な世界でF F 1 3みたいな幻想世界。

そして、宇宙に飛び出て、色々な銀河に行き着き、なんどもはじき返され、さっきと同じ部屋に戻った。

時々、足の臭そうな叔父さんの体をすり抜けたりもした。一家団らん中ののコタツもすり抜けた。

そしてまた、はじき返され、宇宙へと飛び出し、ブラックホールへと吸い込まれた。

ブラックの反対、ホワイトホールからオッサン出てきた。

その世界、まるでビックバンである。

オッサンはビックバンの爆発と共に新たな宇宙へと参入した。

爆発とはいえ、光の速度で進入している。

1000兆年後、その速度で、宇宙の壁にブツ<sup>ガラス</sup>かったところで、また宇宙の終焉、逆ビックバンが起きてY座標に吸い込まれた。

そして、このY座標から、また、同じ様に、ここまで文章の内容繰り返した。

その間、叔父さんの目線は、やっぱり真っ暗で、孤独だった。

そして、自分に何が起きてるのかやっぱり判らず、退屈であった。

自分の存在価値は何なのかと考えた。

そして、おっさんは閃いた。ここまでの物語と同じ事を妄想した。自分は粒子の一つの様に壊れない存在なのだろう。だからこそ、自

分は存在し続けるのだと思った。  
そして壊れないからこそ、光の粒子とかにブツカリ、粒子を反射している。

だとしたら、自分の役割は、そういうのものに反作用を起こさせる物理的エネルギーの役割を果たしていて、この世界に影響を与えていると確信した。

だが果たして、その影響に存在価値があるのか、オッサンには判らない。

実はオッサンは宇宙の壁にぶつかった時、少し削れて更に小さいおっさんになった。

オッサンはビクバンして壁にブツカリ、逆ビクバンを繰り返す程に更に小さいオッサンになっていった。

そうやって、どんどん小さくなっていく過程で、おっさんと思った。（ここまでの妄想話がホントなら、俺は、小さくなり過ぎて、いつか消えるのではなからうか・・・）

その読みは的中。オッサンの存在は、ついに消滅した。



終了？

おっさんは消滅・・・、と思いきや、してませんでした。

どうやら小さくなり過ぎて、宇宙の壁を構成する粒子より小さくなつてしまった。

そして、その粒子の隙間から出て宇宙の外へ出た。

その世界も、ガラス球の棚がありガラスが規則的に並べられている。頭に天使のワツカをつけた人が一瞬みえたかもしれないが、オッサンはその世界の壁もつきぬけた。

そうして幾度と無く壁を突き抜けて、ついに全ての壁を突き抜けた。

そこでオッサンが見たものは、お決まりコース、病院の天井でした。

目を覚ましたオッサンは、ついに現実の世界へと戻ったのである。  
めでたし

だが、病院の上空にステルスタイプのXXXXXXXXプログラムが漂つた事は、誰にもばれなかった。

## 終了？（後書き）

<事後説明>

宇宙論的な仮説みたいなもの

XXXXXXXXプログラムは魂の実験を行う高度科学物質の仕組みの様なもので、

宇宙の真理を解き明かし、神の世界を見つげる為のものである。

つまりオッサンは何かに実験体にされたのね。

何かはオッサンに何かの波を送りつけて魂を異次元へと飛ばしたのだけど、その副作用の電磁波ノイズでPC機器が誤作動を起こした。おっさんは、たまたまヘルゲートを開けていたというオチであり、ヘルゲートと、XXXXXXXXプログラムは一切、関係が無いのである

じゃあ、おっさんの体験は何だったかというところ、XXXXXXXXプログラムはオッサンノ意識や記憶が反映されて逝くという事。

逝った世界は叔父さんの世界であるのだが、それはあくまでXXXXXXXXプログラムの作用の一環であり、XXXXXXXXプログラムはチャックリおっさんから何らかの実験のデータを採取した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4120p/>

---

地獄の門 HELLGATE 『怪』

2010年12月13日07時49分発行